

詩画集

第Ⅱステージ・夏



やまのうえの むらひと  
山上 村人





詩画集 第Ⅱステージ・夏

時間旅行

おとぎの国

モシ モシ

今日も幸せ

生れ変わり

時間船

アガステイアの葉

夢日記

既視感(メジヤヒユ)

コーラスとソロ

新緑の季節

嫌なもの役割

居待ち月との会話

バカ 三態

自然は若者ばかり

38 32 30 28 26 24 22 20 18 16 14 12 10 8 6



待ち時間

花のコーラス

ヨブ記

野草の微笑み

乞食(自戒の言葉)

葉陰の赤い実

自分への説教

竈の神・草の神・風の神…

知りたいこと

エリート達

祈り

真夏の夜の夢

夏草の歴史

ウソつき

暑いですね

選外の人間が選んだ選外のうた (新聞の投稿欄から)

俳句と短歌

追補

68 66 64 62 58 58 56 54 52 50 48 46 44 42 40



## 時間旅行

生きている内にいろいろ見ておきたいと

旅行に憑つかれていてる人がいる

何れ遠くに行くのだからと

私は犬を連れて日々同じ道を歩いている

散歩道はほぼ定まっている

それぞれの草木が順番に花を咲かせ

花を散らせる

路傍劇場で変わる演目に私は飽あきることはない

六十年前ここには人家はなく雑ぞうき木林はやしだった

約五百年前ここは古戦場だった

河越城うえすぎのりまさの上杉憲政こと古河公方こがくぼうの足利晴氏あしかがはるうじが争い※

今も耳を澄ませば悲鳴おたけと雄叫おたけびが聞こえる

このあたりはいつも死骸が転がっていた

千年前は武蔵国むさしのくにといい松林と沼地が続いていた

五千年前は縄文海進じょうぶんかいしんといいこのあたりは海辺だった

更にその十万年前は海だった

私の傍で小魚が消えた

中型魚に飲み込まれたのである

さらにその中型魚を飛来ひらいした鮫が飲みこんだ

横切るとき凶悪な目が私をみて笑った

鮫は自分だった

そして飲み込まれた魚も自分だった

桜が嘘のように散つて

今は新緑の季節である

七十年前の三月十日未明の東京

一夜にして十万人焼死したのは本当だろうか

私がこの世で出会った人達は

本当に実在したのだろうか

雨上がりの朝 私はフト立ち止まった

私は草の葉末の露の中にいた



由緒不明 近くの道端

## おとぎの国

在るものは在ると思うから在る

では あの月は在ったり無かつたりするのかね

三人の学者はボア博士を嗤わらった

当時アインシュタインは敬けい虔けんな学者だつたが

まだおとぎ話の世界には入れなかつた ※1

時間や空間が物質と交換できるなんて

彼は凄いアイデアを発見した天才であつたが

さらに在ることの基本三要素に意識や心が関係するなんてことは

真面目な学者には堪たえられないことであつた

物を細かく細かく分けていったら…

掌の花びらを吹き飛ばし笑つて消えたのは仙人の鉄冠てつかんし子だ

原子になり素粒子になり更に半分にはならない境やがある

プランクと言う学者が発表しゼノンの墓ゆが揺れた※2

巨大な黒板に何世代にも亘わたつて書かれた数式を

みんな消してしまつた人がいる

一則一切一切則一

※3

檳榔樹の下で酒を酌み交わしているのはアインシュタインとボアだ

同じ庭園にシヤカも老子も天使もいる

同じ時間に死んでいたり生きていたりする猫の話を

シユレディングーという元学者の方は※4

イソップと共に子供たちに話し喜ばれている

おとぎ話の世界には魔法使いが居て悪魔がいる

イースターの夜以外でも

魑魅魍魎達は昼夜頻繁に出没始めたが

仮面を被らないので見分けがつかない

UFOが点滅している

極地でもない所にオーロラがでている

新聞を見る TVをみる 身の廻りを見る

身近にも世界にも戦は絶えない

これは おとぎ話の世界だ

既に私は夢の国に入っている



モシ モシ

モシ モシ …

蓑虫みのむしさん そろそろ起きませんか

春が過ぎてしまいますよ

お構いなく もう少し寝ています

外に出るとすぐ鳥に喰われそうで

生まれたくないのです

モシ モシ …

幾ら呼んでも返事がないので

ドアを開けてみました

貝殻の中には砂が詰まっています

中に住んでいた方は波に連れられて

遠くにいつてしまったのです

モシ モシ …

暗い夜空に向かって今でも呼び続けている人達がいます

人間でなくてもいいから応答して下さい

セチ(SETI)計画は四十年以上続いています ※

宇宙人達は遅い電波などで会話していないので困っています

モシ モシ …

夜半 しばらくして切れた電話がありました

気配<sup>けはい</sup>で昔、探した人のような気がしました

子供の頃私はカクレンボの鬼でした

みな林の中に隠れてしまいました

樹木達は示し合わせたように黙っていました

それから隠れた人はもう私の前には現れません

上の方から声がありました

モシ モシ …私ですよ

私はこの前生まれた時はひまわりでした

ずうつと空を見ていて考えていました

やっと雲になったんです



## 今日も幸せ

視力表の下の方が見えなくなっただけ

石垣の花が見える

電話の向こう側が見える

正しいけれどイジが悪い人もいる

目が見えない人が言った

耳が聞こえてよかった

こうして貴方と話ができる

今日無くなったものがある

それは何時かは落ちる木の葉だった

ポケットにドングリが一ヶある幸せ

美味しい漬け物の重しは

百カラットのダイヤよりも

谷川に転がっている石がいい

居るだけで誰かの役にたっている  
タクアン石のような人もいい

大勢の人がお見舞いにくる人がいる  
誰も来ない人にも見舞客はいる

窓の外にポツカリ雲が浮かんでいる  
窓の外にトンボがきている

窓辺で虫が鳴いている

路傍に野草の花は絶えない

気がつけばこの世界は大勢の

心を持ったものに囲まれている

今夜は久しぶりに電話で話した人が元気で

少し幸せな気分だ

私は何でも美味しく食べて痩せない

健康だけで生きるのはつまらない

そうだ 今夜も少し飲もう



制作 太陽の里 (障害者施設)

## 生れ変り

参勤交代のために出来たのが

東海道や甲州街道などの五街道である

六道は人間が生れる前から準備されていた

六つの街道名は

天使道 人間道 修羅道 畜生道 餓鬼道 地獄道である

因みに隣町に六道という交差点がある

どこからでもかかつてこい

ザリガニがハサミを振り上げる 修羅道である

主人がいるからか自分より大きな犬に執拗しつように

吠えかかる小犬 畜生道である

怪我や病気で身体が弱つてくると

何処からか集まるハゲタカ 餓鬼道である

獲物を探して人の不幸を嗅かぎ廻るハイエナ

(人の不幸を職業しゆぎにしているマスメディアやサギ集団) 地獄道である

駅の雑踏でフト想う 嗚呼 みな六道へ行進している  
話しているうち出身地が分かる人がいる

聖人達は解脱<sup>げだつ</sup>して六道を超えようとする

私はそんな高貴な天上界は苦手だ

私は時々妖精や魔法使いになって人間界に戻る

時には魚になって珊瑚礁<sup>さんごしょう</sup>で遊び

昆虫になって花の蕾<sup>つぼみ</sup>の中に潜り込み

この世界も捨てたものではない

街道は多い 国道122号沿いの渡良瀬<sup>わたらせ</sup>鉄道は

紅葉や桜の時は私の好きな道だ

夏の日には奥羽街道がいい

山寺に先回りしてニイニイ蝉<sup>せみ</sup>になったり

アブラ蝉<sup>あぶらせみ</sup>になったりして齊藤茂吉<sup>さいとうしげきち</sup>を助けよう ※

大勢だと気遣うので一人でもいいけれど

誰か居れば更に楽しいぞ



春の渡良瀬鉄道

## 時間船

その場所がお気に入りなら動かなければよい  
歩いたり走ったり乗り物で場所は変えられる

場所は変えられるが時間は人手にまかされていない

自分で漕ぐことも押すこともなく

この巨船は寝ている間も動いている

地球も乗っているし月も乗っているしオマケに猫も乗っている

星雲を紙屑のように飛ばしている一番大きなエネルギーは時間だ

操舵室を覗いたが舵は固定されたまま自動運行している

時間の船が日々停泊する港は 子供駅 大人駅 老人駅

それぞれの港でしめやかに降される棺

泣きながらこの世に拉致、連行される赤ん坊達

時の海をパトロールする船がある

変化出没自在の巡視船だ

大きな災害があると被災地に現れ誰かに報告している

「一九四五年の三月十日未明の東京を無差別爆撃を繰り返し一夜にジャップの老若男女十万人殺傷。

同年八月六日ウラニウム爆弾成功。ヒロシマ一瞬で都市破壊、275、230人殺傷

八月九日プルトニウム爆弾、これまた成功。一瞬でナガサキの都市破壊、155、546人殺傷

アメリカは敗色濃厚な日本で貴重な二種類の生体実験を行い科学的成果確認。日本はこれで無条件降伏した。ブラボー。何人かの科学者の反対意見を押さえたトルーマン大統領の英断である。

原爆の人体実験はアウシュビツツの殺処分1、500、000万人より少ない。放射能の被害も何故か福島より軽い！その後物忘れ人種の日本は米国と最友好国となる。原爆投下の歴史的功績は大。その後日本は繁栄した。

「東北沖の津波、死者15、891 重症61、521人 家屋損傷九万戸

それはそれ、朱鷺、オランウータンとは違い地球規模の種の存続に支障なし」

「各地域戦争で一万人死亡。難民十万人発生。餓死疫病続く。人類の存続に支障なし」

「悪人千人死亡、善人三千人死亡。悪人の陰謀の勝ち。前例通り。その後の人類の存続に支障なし」  
報道によれば現在イスラム過激派、中国、韓国、ロシアは難しい国である。

しかし、中国は孔子や老子がいて杜甫がいた国だ

中近東は人類最古の国だ

韓国にはアリランの歌がある

イワンのバカを書いたトルストイも青春時代の私の琴線きんせんを振るわせた

ツルゲーネフもドフトエスキーもロシア人である。

私は現在日本人だが一万八千年前のアルタミラの洞窟に動物の絵を描いたのは

共通の私達の先祖だ

人が問いかけると、その都度「了解」と応えて踊り続けている神がいる ※



## アガステイアの葉

一枚のヤシの葉に全ての人のデータが古代タミル語で書かれている

有史以来世界中の無名な者までの情報は膨大だ

それがヤシの葉に情報処理したものを五百年毎に書き代え

シヴァ族が代々管理しているという

このお伽噺のような事をわざわざ確認しにインドまでいった方がいる

軽さが売りのワイド番組が派遣した芸能人ではないレッキとした学者である ※1

その方は自らの現地体験を「理性の揺らぎ」という本に記した

その後この世にそんな不思議な事があるはずはない

トリックだ スプーン曲げや UFOと同じと マスメディアの評価が下された

アガステイアの葉の真偽は別として

ミクロの中にマクロの情報があるというフラクタル理論がある

一ケの細胞には生物の全体像が書き込まれている

昔から世界中の人間が死後見せられるのがエンマ台帳だ

この世界の生態系はみな繋がっている

下草がないと森林は育たない、

主役、ヒーローは脇役やその他がないと舞台にならない

主役の大きさは多くのその他大勢が拍手するかで決まる

一羽のウグイスは一人でも歌うが

著名な歌い手は十人の観客では歌わない

あまりに著名になると一人一人の方は見え無くなる

大勢の人の上で生きるより数人の人の中に生きる人がいい

慈しみあう母と子を見よ

恋人同士を見よ

父母の肩を揉んでる姿を見よ

こころの貧しき者たちの会話をみよ ※2

一人の人の為に何かをしてる人達

親しい人のために料理を作っている人は幸せだ

群れの上に生きている人がいる

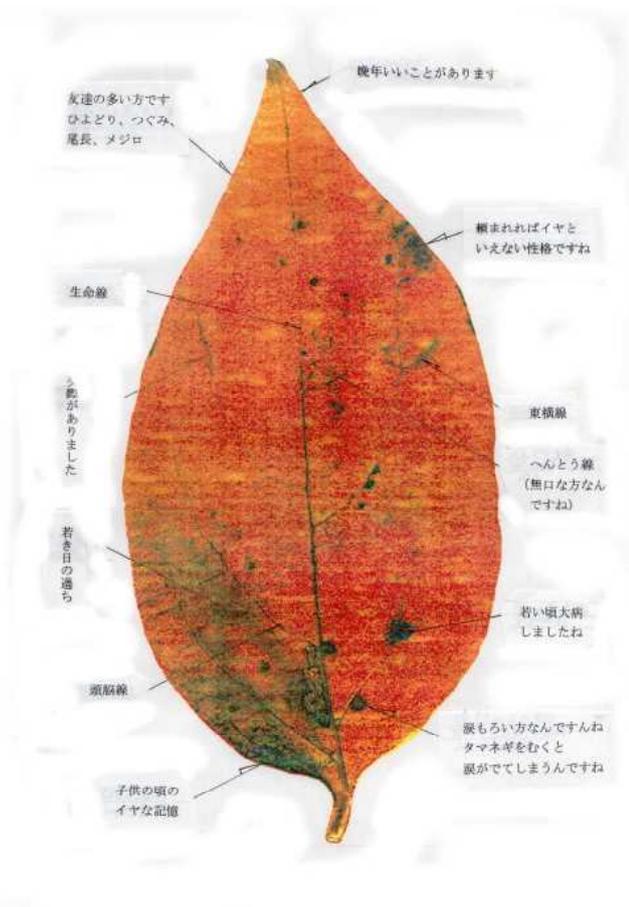
講演 選挙 演奏 ランクの在る世界 世論

他者の為に自らの命を捨てるまさかの人もいる

評価は常に変わる いつも何処か空しい

一枚の葉に全ての人を記した聖者アガステイアは

この世界に意味のない者はいないと考えたからにちがいない



## 夢日記

「構うことはねエ。足腰立たね工程痛めつけてやんな」

保下田久六(ほげたのきゆうろく)親分が目を剥くと

子分達が散々殴ったり蹴ったりした

男は簀巻すまききにされ川に放り込まれた

そこで目が覚めた

夢の中で私は無宿人むしゆくじんのどばあらしであつた ※

足腰が痛みだしたのはそれからである

年を取るとモノ忘れが激しくなる

そういえば確かに在った物がなくなっている

釣つた筈の魚が魚籠びくの中にいない

鳴き声がしなくなつたので見たら鳥籠の扉が開いていた

綺麗な緑色のバツタが虫籠にいない

確かに居たはずの人がいない

その人は台所でネギを刻んでいたはず

土曜日の午後は駅前時計台の下で私を待っていたはずだ

連休の早朝は駅のポスト前に山登りの仲間がいた

みんな居なくなつて途方に暮れた私は

自分が分からなくなり交番を尋ねた

お巡りさんは「これが貴方です」と

一枚の写真を見せたがそれは見た事もない男だつた

まさかと鏡を見て驚いた 白髪しらががある

嘘だ！鏡よ お前まで と私は絶句した

生きている間、私は私だけを生きてきたので

次ぎの紙芝居は私以外がいいと考えていた

竹から生まれたかぐや姫は長ちやうじて

自分がこの世の者でないことを知り月を仰いで嘆息した

私は竹でなく木のまたから生まれたと聞いている

その私も言つてみたい言葉がある

「実は私……。この世の者ではないのだ」

人が聞いていると恥ずかしいので

物陰で飼い犬にいい聞かせることがある

犬は困った顔をして私を見上げている



His Master's Voice

## 既視感(デジャビュ)きしかん

その場所へ行くと急に思い出す

ある事をすると思いつく

大半忘れていた古い記憶であるが

外国の地など行ったことの無い場所で

かつてそこにいた記憶が鮮やかに戻る場合がある

また、初めて会った人にそれを感じる場合がある

それは場所や人だけではない

物の記憶もある

私の娘は尖端恐怖症であるせんたんきょうふしょう

刃物で刺され殺された記憶があるという

今生の事ではないこんじしょう

たまたま出逢ったのに何故か親しみを感じる人がいる

前世身近にいた人である

元家族であつて又家族になつている人もいるという

でも役柄は同じではないという

我が子に障害の子がいるがこれは誰だろう

次ぎに何になるか分からないが

蛇やゴキブリにはなりたくないと思うのは何故だろう

人間には男と女がいるが

何故かそれでも男の方がいいと私は刷り込まれている

そして人を苦しめ悲しませる者にはなりたくない

犬や猫にも前世がある

七年いる飼犬が言う 以前小犬で死んだ

指先のトンボが呟いた 私誰だか分かりますか

昔兎だった者は今は亀です

この世で美しい花はあの世界でも咲いている

ねんねんさいさい  
年々歳々花は同じです

新緑の五月 私が見ている柳も

おののとうふう  
千百年前小野道風が見ている柳も蛙も同じである



鳥獣戯画 製作者複数

## コーラスとソロ

その方は声量に自信があるのです

他の方が歌い終っているのまだ声を伸ばしています

他でエライ方なので指揮の先生は困っています

自分だけ目立つように歌つてはいけません

ソプラノとかテノールとかバスとかそれぞれのパートがあります

嵐の夜のガビラのように ※

勝手に歌つてはいけません

譜面があります

譜面通りでもいけないのです

指揮者がいます

みんながその方の指先を見えています

自分が見えなくなつて、いつか別の大きな自分になっている

コーラスも楽しい

その人だけのソロも素敵です

くつむし  
響虫(ガシヤガシヤ)は合唱専門ですが

同型のスーイチヨと鳴くウマオイは月を背景に絵になります

(美声、美形ですが肉食で共食ともぐいもします)

晩夏から初秋窓辺にきて澄んだ音色で鳴くカネタタキは

知名度がイマイチですが私が一番お奨めの声楽家です

見かけが小さくて粗末なので人目に触れると急いで姿を隠してしまいます

心にしみ込むような透き通った声の蛸ひんしがいます

盛夏一番の音量自慢はアブラゼミです

王様の耳はロバの耳 空気が読めないのは鸚鵡おうむです

そんな人は私の手におえませんので外へ出て歌いなさい

はい そうします

五月になると

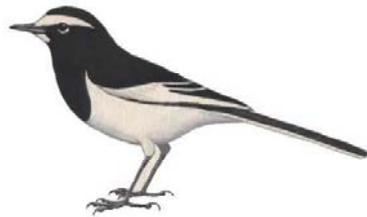
一声ツイイーと空を横切る小鳥がいます

音楽学校はでていないようですが

白線の入ったカッコいい姿をしています

名前は分かりません

よそもの余所者かもしれません



ハクセキレイさん かも

## 新緑の季節

病院の傍の桜は何時の間にか新緑だ

昨日地を一面ピンク色に染めた花は何処にいったのか  
桜の花びらは地に落ちると

幕が降りた後の俳優達のように急いで着替えるのだ

悪戯いたずらな毛虫が少女の前に降りてきて悲鳴を上げさせる

その少女が駆け出して捕まえようとしている蝶がいる

蝶が笑う 僕だよ 昨日の毛虫だよ

蝶は 少しまえの時代 てふてふ と書いた

蝶の飛び方は とんぼや蜂とは違う

よく見ると てふ てふ と舞いながら飛んでいる

車椅子に乗って満開の桜を眺めていた方はどうしているだろう

車椅子を押していた看護師さんは今も働いているが

老人は無事退院して白い雲になっている

花の咲く前も咲いた後も地味な木肌のままの桜に

小鳥が飛んできておしやべりをしている

こんないいお天気なのに

何処にも行けない木つてお気の毒

木は黙つて笑っている

動く必要がないのさ

地に深く伸びている根をみてくれ

空に向かつて広がる大きな枝と無数の小枝 これはアンテナだ

根は地球の裏側の北海の波音を聞き

火山の鳴動を聞いている

ここにいて世界の全てが分かるのだから

小さな羽で飛んでいく必要がない

今 寺の裏山で小鳥の巣を狙っている蛇がいる

今 ねむの木の所で赤ん坊が寝ている

千の悲鳴が聞こえる 万の祈りが続いている

軌道はずれた巨大な隕石が今地球に向かつている



## 嫌なものの役割

時々嫌なものを見ます

時々嫌な人に出逢います

ゴキブリが部屋を横断するのを見たり

道路に轢ひかれた猫を見たりするのは我慢します

この世界に悲惨なことや不幸が山程あるのは承知です

でもそれは新聞やテレビで見るだけでいいのです

他人事なら我慢強い性格です

でも身近に起きることはダメです

嫌な人間と同席したくはないのです

それなのにバス旅行で二日間も同席したり

同じ部屋に一夜泊まる羽目はめになった事があります

…**楽しみはいやなる人の来たりしが長くもをくらで帰りけるとき…**

これは善人丸出しの橘たちばなのあけみ 曙あけぼののうたです

良寛さんだつて**嫌いなタイプを戒語録かいごろくに90も上げています**

今迄もかなり我慢しているのです

それなのに私の回りに嫌な人が絶えず登場します

そんな私の抗議や疑問に応えた方がいます

「あなたの国籍は天にあり、という聖句があります

嫌な事がないと人は何時までもその場においてしまいます

大切な故郷を忘れないように神様が時々お使いをよこすのです」

「それはどうも、まさか神様のお計らいとは…」

私の故郷は緑も海もない鑄物町いものまちで恐縮しました

その方は神様の御家来という感じですが

水上歩行もスプーンも曲げられないさえない方で

私と大差ありませんでした

さらに比較宗教学も知らないようでしたので

幸せとはある程度の健康、最低限度の収入、家族等…

それが前提だと熱心に教えてあげました

さらに私と同じ人間で何処が幸せなのですか？

あなたは神様に欺だまされているのです！と説明しました

その方は「それでも幸せです」とまじめな顔でいました

これ以上はとて

…もう、すっかり欺されているのです…

ま  
い  
い  
か



## 居待ち月との会話

夜半 ふと目を覚ました

窓から夜更けの(居待ち月)が覗いている ※

私が目を覚ましたので急に黙ってしまったようだ

人の気配に

水面下に潜つてしまふメダカの群れ

人が近づいたので

隣の木に飛びたつ小鳥たち

人に聞かれたくない話をしていたので

人が見ていると何時までも黙っている花

人が来るまで雀と話していたお地蔵様

犬と一緒に寝ている子猫の写真がある

同じ国の人同士なのに

何時までも会話がない人達がいる

人が人以外のものと話すのは難しそうだが



犬や猫に話しかける人がいる

植物に話しかける人がいる

その人達の報告によれば人よりも話が通じるといふ

月の夜 星達は遠慮してそれぞれの明りを消している

満月の前後の月は人に親しまれているが

人が寝たあと顔を出す居待月は

一部が闇に解けてしまふ子供達に見せられない顔だ

昼、緑の葉は皆黒々寝ている

小鳥たちも皆羽の中に顔を隠して寝ている

夜更けの部屋で私はもう一度目を閉じた

私が目を覚ます前

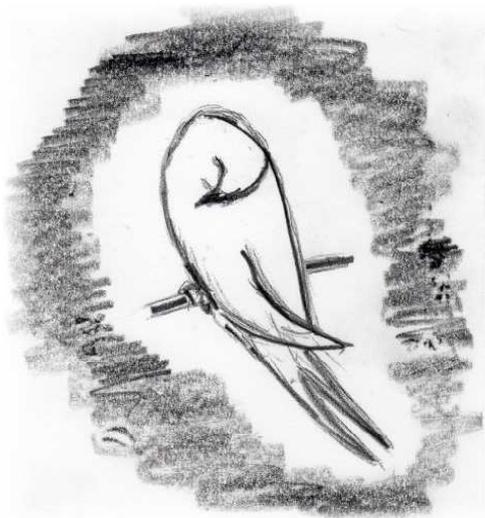
夜更けの月が私に話していたことがある

それは昼間私が思い出せないこと

誰もが私に伝えなかつたこと

人間が忘れていく多くのこと

夢の中で私はその続きを聞きたい



## バカ さんたい 三態

思わず話を中断する場合があります

話し相手が急死した場合

話し相手の補聴器が外れた場合

話し相手が急に動物に変身して

人語が通じなくなつた時

目の前に急に防音壁ができた時

私は目をパチクリして会話はとぎれますが

まもなくこれがバカという動物です、というガイドさんの声が聞こえます

そうだと私は人間動物園にいたのです

バカ族には三つあります

かながきの バカ 私は人畜無害のその一族です

今も日々天動説で生きている人種です

五感を感じる外は全てまた聞き情報です

神様や仏様もいるような、いないような感じで死ぬまで生きています

馬鹿 これは自信に満ちた種族の方です

でも馬鹿といつてはいけない 馬や鹿に失礼です

昔 馬と鹿の区別がつかない人がいました

ガンコな方で「シカと左様か」とお奉行さまが念をおすと

そうです とその馬泥棒は答えた

それからその種の人間に大岡様が呆れてつけたのが馬鹿なのだ

莫迦<sup>ばか</sup> これは博識、高学歴の方の場合 敬意を表して難しい字で表現します

語源はサンスクリット語「βα&α」 ヴァカ

役にたたない法律や規則を制定して

昔から人様に迷惑を掛けている人種です

勲章が好きでどこか目線が高い人種です

学者同士で意見が対立している場合など、その間にあるのがバカの壁です ※1

庶民にはどちらが正しいか分かりません

でもどちらかが間違っているのです

こういう場合 あわてて頭の良くなるサプリメントを飲んだり

苦勞して有名大学を出たり生れ変わる時間がない方のために

「イワンの鑑別法」というのがあります ※2

双方言い合っているのを眺めてイジワルの方を莫迦と判別する方法です



縄文土器 考える人

賢者と莫迦は紙一重です

昔 国仙和尚こくせんおしょうという有名大学の教授より偉い方がいました。

この方は途中から弟子入りをした良寛というさえない男が気に入りました

死期を前にその男の饑別せんべつに最高の褒め言葉ほめごたえを考えました

おまえはこの世的にはバカにみえる人間だ

だから特別のバカ【大愚たいぐ】という号を与える

良寛は国仙和尚より藤杖を一本貰い感激して去りました





## バカダ大学校歌

ばあか ばあか ちんどん屋 お前の かあちゃん おおでべそ(元歌)

東京さいつて死んじまえ (ある地方の囃し言葉)

ばあか ばあか ちんどん屋 お前の とうちゃん(かあちゃん)でしゃばりだ

三段腹より わーるいぞ

そーだ そーだ 死んだ そーだ

そーだ村の村長さんが 死んだーそーだ (元歌)

悲しい人は少ないそーだ

お墓の石は大きいそーだ

坊さんのお経はなあがいそーだ

葬式饅頭そうしほまんじゅううんめえそーだ

いーけないんだ いーけないんだ

お廻りさんたら いけなんだ

森の獣けものじゃあるまいし

人が働く昼間から獲物えものを狙ねらつて身を隠し

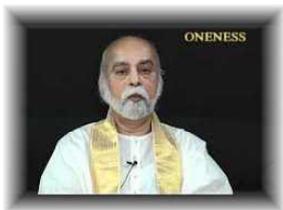
いーけないんだ いーけないんだ

虎や狼見逃して獲物は兎やリスばかり

いーけないんだ いーけないんだ

せんせにいつてやろ

オレは居ないけど  
似た名前の聖者が  
居るよ。南印度の  
シェリ・バカヴァン  
というお方だよ。



## 自然は若者ばかり

生存競争が厳しい自然の中で

生きているのは皆子供から若者ばかりだ

野鳥、特に小さな身体を焼き鳥で喰われたスズメ達は

飼育下では十年以上生きるのに ※

平均二、三年の命だ

食卓で時折り小さな魚をみるが

鱚いわしもアジもイカも

大きくなるまでに捕獲ほかくされ大人になる暇が無い

サバンの動物達は

素早く隠れたり

走れなくなったら喰われてしまう

病気になるても保険も病院もない

白髪しらが出たり足腰が痛むのは

人間だけで生き過ぎたバチだと思っ

トンボや蝶は一つの季節だけの命だが

一日でも空が飛べるのは地にあるもののように

陽光の下で一日中それぞれの花を開き

実を結ぶ四季がある野草は更に幸せ

人間は犬や猫より長寿だが

江戸時代 人は青年期を過ぎるとたちまち老化した

芭蕉は四十歳で翁と呼ばれそのような装をし

自ら老人だと想い老人の句を詠んだ

死期さとり 髪切り落とす 秋の暮れ

これは白血病で死んだ十歳の少女の辞世の句です

十一歳で自殺した少年もいる

亡くなったものはそれ以上年をとらない

私の記憶の中で今も泣いている子供達がいる



お父さんおかえり  
谷内 六郎

## 待ち時間

病院の待合室で思った

待ち時間を短くする方法がある

私は呼吸を半減させ脈拍を減らせて仮死状態になる

病院は待つ修行ができる禅寺である

辛い時間は果てしも無く長いが楽しい時間は短い

竜宮では三百年が三年で過ぎることを浦島太郎は悟った

三百年どころかキリストが約束した再臨の日から

既に二千年経っている

神の目から見れば千年も一日 一日も千年という

まだ二日しか経っていないのだ

二千年は短い

白亜紀恐竜と目が合ったハエは樹脂に脚をとられ

今も息を止めたままの姿だ

樹脂は一万年経つと化石化しコパールと呼ばれる

コパールは更に数千万年、一億年を堪え

漸く琥珀という宝石になるという



私はこの大病院に二週間いたことがある

その間待ち草臥れて裏門からひとりだけで抜けだした人もいる  
来るはずの人を待つのは楽しい

誰も来ない人の為に深夜 夢の電車が来るといふ無人駅の話もある  
ワインの熟成の時間が過ぎ

竜宮の三百年が過ぎ

怒号と怨嗟の中で再臨の二千年が過ぎ

琥珀の時も過ぎたところで私の番号が呼ばれ我に帰った  
病院の帰り道 蝸の声を聞いた

―病める者も健やかなる者も

全ての人に時が過ぎる―

また何時か呼ばれる時がある

おおつと 応えると私は紅葫蘆(へにひさご)※の中にいる

瓢箪の中は一面銀河だ

どこからか蝉の声も聞こえる

そうだ みんなここにいたのだ



紅葫蘆

## 花のコーラス

何故そんなに多くの花を咲かすの

同じ形で 同じ色で

人のように一人一人違いがあれば別だが

群れ咲く花にはその区別がつかない

過日 著名な方が不治の病の宣告をうけ

悲嘆にくれていることを知った

皿や車なら同じものの交換品があるのに

予備のない自分が無くなるからである

こんな時 野草の花のように自分が幾つもあつたら

体毛たいもうの一本で分身ができたら

影武者をイケニエに差し出せば良い

形代(カタシロ)はその思いつきからである ※1

落馬して歩けなくなった齋王さいおうの世界は急に狭くなった

戦国時代の生き甲斐は英雄物語の中にこそある



シロバナユウゲショウ



アカバナユウゲショウ

一方 外界は内なる世界の影であり

内なる世界の方が大きいという者がいる

華嚴教けごんきょうは微塵みじんの中に三千世界があるという

一輪の野の花をみよ ソロモンの栄華も及ばない トイエスも言う

瞑想は内なる世界に入るツールの一つだ

但し それはヒマラヤの聖者や空海のような者の話

小人しょうじんの私が瞑想すると籠かごの鳥のように落ち着かなくなり

そこで落ちつく為に酒を飲むと眠くなる

1995年ハッブル望遠鏡は何もない暗い空間にフォーカスした

そこに1500ヶ、2000ヶの銀河が現れ天文学者は腰を抜かした

百年前一ヶだった天の川銀河が今は二千億以上ある

掌ひとくれの一塊の土の中に百億以上の生きものがいる ※2

〈微塵の中に全世界がある〉華嚴經の言葉通りであった

かつてこの地表に幾つかの文明があった

道端の野の花達が歌っている

今日 この世界で出逢った人達がいる 嬉しい



アカバナユウゲショウ

## ヨブ記

これはサタン親分と縄張りを二分する

ヤーベエ親分の子分自慢の話から始まる ※

「一番弟子のヨブはどんな状況にあつてもオレを裏切らない男だよ」

「へへ そんな男がいるもんかい。」

恵まれた条件を一つ一つ剥はがしていつたら分かるさ。賭かてもいい」

「ふん、じゃ やつてみる」

「OK」 サタンはニヤリと笑った

当時のヨブの財産目録は下記の通りである

羊 七千頭 らくだ 三千頭 牛 五千頭 雌口バ 五千頭

妻一人 息子七人 娘三人である

それからサタンは予告通り次々と禍わざわいを起おこした

第一波 シバ人びとによる襲撃しゆうげき 家畜強奪 使用人殺害

第二波 カルデア人びとによる襲撃 家畜強奪 使用人殺害

第三波 強風による家屋破壊 使用人含め息子、娘、圧死あつし

さすがのヨブも相次ぐ禍わざわいに悲嘆ひたんにくれた

サタンの勝利は目前まへだった

「ヤーベエのバカヤロウ！お前みたいな薄情モンが何んで神であるもんか」  
その一言でサタンの勝ちとなるのである

…失った物はみな無かった物だ：ヨブのお人好しは筋金入りであった  
「どうだい。ヨブはもう何も持つてないぞ」

「まだ、まだ」とサタンは笑った

「身体が丈夫なうちは何とでもなるさ。次ぎは身体を痛めつけてやる」

それからのことはヤーベエの想定外であったが、流石はサタンである。

苦痛だけでなくヨブを醜い皮膚病にしようとことん苦しめた。

ヨブは灰の中をのたうち廻りこんな人生なら生まれたいほうが良かったと叫んだ

「ここまでされて 何で神様なの！いい加減に敬うのを止めて呪いなさい」

妻はヨブをけしかけた

ヨブは生まれた日が恨めしい、と呻いたが遂にヤーベエを呪はなかった

ヤーベエは賭に勝ったのである。

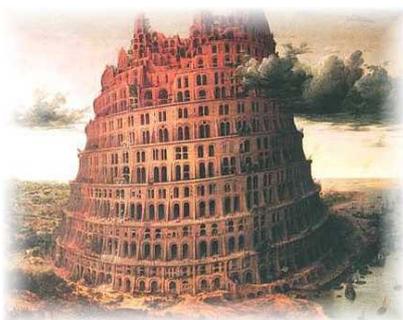
ヤーベエはヨブの失ったものを倍にして返した

つまり家畜は全て二倍。家族は元通り息子七人、特に美しい娘三人

記録にはないがその後の妻は前の妻ではなさそう

それからヨブは普通の人生の倍の百四十歳まで生きたとある

ヨブ記には犠牲になった息子、娘、妻、使用人についてのコメントは見当たらない



バベルの塔

これでいいのか！



バカボンのパパ

## 野草の微笑み

誰かが育てなくても咲く花がある

人が育てなくても咲く花は人以外の者が見つけているからだ

路傍の花は小さいがよく見ればみな美しい

区別が分からず全て雑草という者は雑草から雑人ざつじんと呼ばれる

身分の高い者や大事な子供の名をつけるのは熟慮じゅくりょの末だが

貧乏人や子沢山の場合は安易あんいだ

捨て子なら捨吉、男児は順番に五郎、六郎で女兒はとら、よねと命名した時代があった

野草はほぼ外来種ゆいしよで由緒正しい者は少ない

それで横町の隠居にも相談せずセンエツにも八や熊が適当に名づけた

すみれの語源は花の根の部分ほう(包)が大工の墨入すみいれに似ているからだという

センスのない名が幾つもあるが

紫色の可憐な小さな花を「オオイヌノフグリ」これはひどい

【紫小星しほしほ】と私が名つけたが野草図鑑ずかんは未だ直っていない

中には「ヒルサキツキミノウ」(ユウゲシヨウ)という素敵な名もある

道端の野朝顔から身をおこし大輪になった栽培種の朝顔もいる

元舶来はくわいの栽培種であつたが道端に逃げだしたフランス菊のようなものもいる



ヒルサキツキミノウ

パーティー会場に飾られる豪華な花も元を辿ればみな野草だ

人の手で品種改良された花も放置されればやがて消えてしまう  
希に生き残るものはトゲだらけになって野生に帰る

民話の山姥は愛されず人里はなれて老いた元可憐な少女である

夏の長い一日も季節が傾くと日が陰るように人の世も終わる

人の世界が閉じかけた時、私は別の世界の扉が開く音を聞いた

世界は人の世界だけではなかった。人以外の多くの世界がある

日毎の散歩道だけでも野草、樹木、虫、野鳥の世界がある

世界は昼の世界だけではない

夕方から咲く花もある

夜咲く花は月下美人だけではない、ゴバンノアシもある

人の世には恵まれたドラマもあり無惨なドラマもある

残り少ない晩年に少し幸せが訪れることもある

この世界は太陽の輝く昼の世界があり

日が落ちると満天の星空が輝く神秘で不可解な世界がある

花には心がある。不安や心配ごとがあると花は花弁を閉じる

明日は疲れて散る今日一日だけの花が

通りすがりの私を見て何故か微笑んでいる



ゴバンノアシ

## 乞食こじき(自戒の言葉)

職業しごくに貴賤きせんはある

泥棒や殺人は重い犯罪のようであるが

時には立派な職業として昔から賞賛されている

商船や隊商や他国から財宝や領土を奪い

多くの人を殺したものは英雄である

売春も古い職業の一つであるという

泥棒も殺人も売春もできない者が乞食になる

乞食は最低の職業である

原始時代は皆同じ職業であつたが

文明が役割分担を細分化し職業に貴賤が生まれた

日本では籠かごに乗る人担かたぐ人そのまた草鞋わらじをつくる人が生まれ

外国では王様専用の料理人、団扇うちわ係、牢番ろうばん等が生まれた

乞食にも様々な種族がある

シヤカは身体が悪くないのに自らも乞食をし

弟子にも乞食をするようすすめた

乞食修行は少なくも謙虚さを学べる

乞食は食べ物や金銭を貰うだけのようだが

代わりに見えない贈り物を置いていく者もいる

人の生き方は自分が優れていると思うのが楽しい

それで過剰に身を飾る女がいる(評価した一人が痴漢である)

高級車、高級ブランド、高座を好む者がいる

己ひとり喜んでるのはよいが

へ礼も言わず他人からタダで賞賛を得ようというなら心の乞食である

始めドンダンは他人より優れたものを自分の中に探した

やがて優れたものは見当たらず己は人並以下ではないかと気になった

不安になったキツネは虎のバッジをつけて安堵した

無頓着や無神経で人の目が気にならない者は幸せ

どちらが正しいか、という会話は空しい

そんな時鏡を見れば二匹のサルがいる

何時になつても他人の評価が気になる人がいる(私も時々心の乞食になる)

落ち込んだときは【野の百合を見よ】と言った人がいる

ソロモンの王宮はもはや誰も知らない ※

ある日その方と野の百合を見た



山百合

葉陰の赤い実 はかげ

いつも通る道だけど

葉陰に赤い実がなっているのを

今朝気づいた

屈かがんで覗のぞくと赤い実の一つでは無かつた

トウグミは熟すと甘くなるが

人が食べるには小さ過ぎる

低木ていぼくなので大きな鳥には見えない

知っているのは小さな野鳥だけだ

トウグミの実は真っ赤で

ルビーよりも素敵だ

しかも生きてるので

赤ん坊の頬っぺたのようにつやつやしている

トウグミは小さな野鳥のものだ

人がイヤリングや

指輪にすることはできない

この美しさを閉じ込めておける宝石箱はない

枝から離れてしまえば

妖精ようせいの贈り物と同じで※

まもなく光を失い萎しなびて腐くっってしまう

梅雨の晴れ間の数日

緑陰りよくいんで小鳥の来るのを待っている

トウゲミの赤い実を

いつもの散歩道で私は見た



## 自分への説教

なあ お前

他人の噂や評判に一喜一憂するのから

まだ卒業しないのか

案山子でさえ足一本で立っているぞ

自分が自分である事に絶望するのは人間だけだ

人目に逃げ出すゴキブリは己の姿に恥じているからか？

かつて自殺したフンコロガシやゲジゲジがいたか？

ハイエナや死肉を食らうハゲタカは

来世野ねずみやスズメに生まれ変わることを希望するだろうか？

草食動物は肉食動物に生まれ変わる事を願うだろうか？

お前は自前の足を一本も持たない

突つかえ棒が三つある看板と同じだ

一つ無くなるとひっくり返えつてしまう

一塊の土の中には億の生きものが蠢き

葦の髄から覗く夜空には億の星が巡っている

この世には 人間以外のものが こんなにもいるぞ



ヒナゲシを見よ テントウムシを見よ ギンヤンマを見よ

彼らはへ何処でもドアから十年前の世界を

十年後の世界を自由に往来して死ぬことがない

その都度死んだと思いき墓があるのは人間だけだ

失われたものを嘆き 無いものを願う

この世は何の為に在るのか

一つの民族や歴史のためではない

一人の幼子おさなごのためにある

今日一日の野の花のためにある

この世のしがらみから笑顔でジャンプするのを解脱げだつという

山奥に籠こもつて難行苦行して解脱できるのは0.00%の人種と思う

それを簡単な方法で街ぐるみ解脱し、街の名を解脱市としようと言いきアイデアを思いついた人達が居る

1971年 埼玉県北本市である「それはチョットね」と言う人が多く

結果として 第二の宗教都市 天理市になれなかった

解脱は自分からの離脱であり箇々の宗教からの離脱でもある

地球は丸ごと解脱星になるのがよきぞう



ビオラ・パンジーより小さい

寵かまじの神・草の神・風の神…

神道はアニミズムである ※

人が科学の眼鏡を外すと

身の廻りに様々な妖精が現れる

耳栓を外せば異界いかいの様々な声が聞こえてくる

家の中には寵の神がいる

古い家には座敷童子ざしきわらしが住む

アニミズムは多神教であるが一神教でもある

神道には様々な神がいるが

天之御中主神あめのみなかぬしのかみは天地てんちの創造主そうぞうしゆである

一神教の創造主に似ているが

八百万やおよろずの分身を作り人の世に送り出している

アニミズムの世界では山家やまがの一人暮らしでも

人は孤独ではない

木々の間には小鳥の他妖精も見える

佐保姫さほひめは春の女神である

このはなさくやひめ  
木花咲耶姫は子供を抱いている

秋の女神は竜田姫である

風の神志那都比古がいる

草の神萱野姫がいる

旅に出れば猿田彦が道に迷った者を導いてくれる

月の夜には月読命が語りかけ

月のない夜は星の神天津甕星が人々の祈りを聞いてくれる

北欧の妖精達

星空のギリシヤ神話

露の葉の陰に住むコロボツクル

各地の異次元伝説

アイヌの神々がすむ世界等みんな楽しい

中でも蛾の皮を着てガガイモの実の殻の舟で海から現れ

その後粟茎に弾かれて常世の国に行つた少彦名

私はこの小さな神のファンである



## 知りたいこと

朝の散歩道で立ち止まった

地表に小さな星が落ちている

見上げると白い花房が下がっていた

何という名の花だろう

シート 私は耳だけになった

途中からだつたがそれは私の心の奥に響いた

漸くその曲を探し当て録音した

「いい曲でしょう」私は目を輝かせて尋ねた

「うん。古い曲だね」とその方は気の毒そうに笑った

子供の頃 月夜に宝石のように光るものを拾い

翌朝見たらラムネビンの欠片かけらだったことがある

よいもの 美しいものは時により 人によつて違うのだ

小鳥は美味しい木の実を見つけると小鳥の仲間だけに伝える

花の密を見つけたミツバチは仲間のミツバチに伝える



伝える人が居ないとき

私は金魚に伝えることにしている

美しいものや美味しいものに出逢うと

私はその名前を知りたくなる

昔は横丁にご隠居がいたが今はパソコンの検索エンジンがある

そうして私は花の名や人の名を覚えた

覚えられないものや すぐ忘れてしまうものがある

学生の頃は年代や数式だ

その後はユーモアがない人や選挙の時の名前だ

読んだらもつと読みたい本がある

話の続きを聞きたい人がいる

私が今一番知りたいことがある

それは私が何でこの世界にいるのか

そしてあなたがいた いる理由 ※

それを答えてくれる人の名前を知りたいのだが

アドレスが分からない



## エリート達

カースト制は古いインド社会だけではない  
年収二千万円以上の人も

その十分の一以下の人も同じ税を払う

この世界は地獄と天国が同居している

何時も天使の歌声が聞こえる大聖堂があり

時折り野外会場で盛大なバザーが開かれるように

人間の屠殺場が開かれ難民がうまれる

身体の何処か不自由で嘆いている人がいる

身体の一部無い方で笑っている人がいる

愚かで体も心も醜い人もいるが

容姿ようしたんれい端麗才能豊かで心もよい人が希にいる

表はいいけど裏がカビてるサクランボや

意外と美味しいジャガイモ達が混在している この世界

背負った重荷のためにそのまま沈んでいった人もあり



火星の人面画

人並み以上になつた人もいる

人は何でこんないろいろなのだろうか

金子みすずは環境が悪すぎ八木重吉は生きるには幼すぎた ※1

それでその人の言葉は才能以上に私達の心に響く

ハンディキャップは競技者の中で実力差が大きい場合

優れた者に与えられる

この世は競技場である

私にも幾つかのハンディキャップがある

私の身の廻にも密かに小さな重荷を持つ者

中くらいな重荷を負つた人達がいる

みんな笛が鳴るまで健けなげに生きている

産まれるまえ「じゃ、僕がその役を」と申し出る子がいる

難病を選んで産まれる戦士達である ※2

ある養護施設で様々なハンデを背負つた子供達に出逢つた

私は頭こぶを垂れた

誰もが五体不満足か何処か病気だ その中に私の子もいる

みな 神が選んだエリート達だ



## 祈り

朝起きると太陽に手を合わせ

今日も一日お守り下さい と祈る人がいる

へ身近に 遠くに

朝が迎えられなかつた人達がいるからである

一日が終わると

今日も有り難うございました と夕焼に祈る人がいる

へ昔も 今も

夕べが迎えられなかつた人達がいるからである

今日一日ご苦労様でした

明日のことは明日がわづらう

今宵は人の世の安らかな一時である

一番星が輝く



祈る人 ミレ

## 真夏の夜の夢

夜空に轟く打ち上げ花火は

一網打尽の星の投網だ

その夜大量の星が空から消えた

落ちた星々は森の木々を飾り

海に沈んだ星は暗い海底に輝いた

渚なみには☆印のタコノマクラが無数に落ちていた

地上に落ちた星は

世界中の子供の夢の世界に散らばり

玩具箱や部屋の中に入り子供達を喜ばせた

巻き添えで森に落ちた三日月はフクロウの上の枝に止まった

星が無くなったあとは

何処あゝまでも蒼い夜空が続いていた

やがて渡り鳥達から抗議が寄せられた

夜海を渡る船は行く先が分からなくなり

せめて北極星だけでも元の位置に返して欲しいと嘆願した



タコノマクラ  
(棘皮動物)

子供達と遊んでいた一人の天使が  
トランペットを取り出し夜空に吹き鳴らした  
消えた星は皆空にかえり  
翌日は満天の星空だった  
※



## 夏草の歴史

どんな場所でも

所有者がいることを知っていますか  
かつてに住んではいけないのです

あら、こんな道路の隅っこでも

やけた石垣の隙間もですか

そうです

貴方は人の世の不法侵入者です

食べられる野菜なら畑の土があります

鑑賞用でしたら鉢の土があります

でもあなたは要らないのです

要らないどころか迷惑ですので

そこに居座ると除草剤をかけますよ

目がなく 耳がなく



タビラコ

動くことも出来ず 借地権もなく

何故と聞かれたことがあります

私は大きな夢の中にいて

様々な気配を感じています

渴いた後の雨の喜び 太陽の恵み

時折りさわやかな風に吹かれるのが好きです

小さな花を咲かせたあとは

秋にはそれなりの実をつけます

様々な昆虫に出会います

リクエストのない人生を

前の前の前の世から

次の次の次の世に伝えるのです

たまに足を止め

似てるなあ と呟く人がいます ※



ツユクサ

## ウソつき

私は時々嘘をつく人が好きです

ミリエル司教しきょうはジャン・バルジャンを連行した刑事に

「その銀の食器は差し上げたものです、燭台しよくたいの方はお忘れになりましたね」と微笑ほほえみました  
このお方には偽証罪ごしやうざいの他演技賞も該当します

親が失望しないように30点を80点に手直して見せる子は親孝行です

冷たいホントつきより

優しいウソつきが好きです

「きつと治るよ」

「美味しかったよ」

「良かったよ」

「また 来るからね」

ほんとうに そう思つて祈つているのです

TVがこしらえた名刑事がいます

番組の最後で善良な男女まで手錠を掛けます

法律や裁く組織が完全なら別です

いくら作り物でも、そこでムカツとします

ダメおやし

古谷三敏



警察家族の交通違反の確率：その詳細データ（しやうさい）

巨大事業の政治家と暗黒世界の関わりとマスメディア  
そこまで裁くと地球ごと刑務所になります

身近な暴漢には関わりを持ちたくないのが普通です  
腕力のない私がそうです

希に正義漢がいて過剰防衛（かじようぼうゑい）に問われる事があります

そんなとき オオ ソレ 見よ （Look at me）

私は正義のためなら敢然（かんぜん）としてウソをつきます

でも、家族のために脅迫（きようはく）されたり

拷問（ごうもん）されかけたら即、豹変（ひょうへん）します

それどころか家族の餓えのために

私達の先祖は仲間の隠れキリシタンを密告しました

元禄年間のことです

この地を訪れた六部の娘を洪水の人柱（ひとばしら）にした百姓達（ひやくしやう）がいます  
恥（ち）ずかしながら私はその魑魅魍魎（ちみもうりようまつゑい）の末裔（まつゑい）です

※



## 暑いですね

「暑いですね」が合い言葉になる日々です

父よ母よ妻よ あの世界で如何お過ごしですか

この世はまたお盆です

陽炎が燃え今世と異次元世界の結界が曖昧になります

認知症の初期症状かもしれません

休日の朝など寝過すと

明治時代にいてナットウ売りの声で目を覚ましたり

江戸時代に寝ていて半鐘で目を覚ますことがあります

昼寝している時など金魚売りの声など聞いています

やや腸能力もある私ですが、これは御内聞に…

チリンと風鈴が鳴ると昨年亡くなった人が出て団扇を煽いでいました

「いやあ、暑いですね」

「この世のことですか」

「いや、夏は北国も暑いようにあの世も暑いのです」

「あの世は暑くも寒くも無いところではないのですか?」

「暑いからビールが美味しくて、寒いから鍋物が美味しいのです。

この世にあるイイものはみなあの世にありますよ。

「この世とあの世は地続きですからね。」

「なあんだ。じゃ、何が違うの？」

「ひどく痛いこととか、類は類で集まる原理で嫌なヤツが居ないことくらいだよ」

腰に手を当てる話している私に横から蝉が割り込みました

「腰痛は老化現象だ。我慢できなくなったら脱皮するといひよ。ミーン ミーン」

「待て。オヌシ、タダの蝉では無いな」

蝉は西さいぎょうほうし行法師の化身けしんです。

「バアカ」

蝉は私にオシッコをかけて飛び去りました

まだ修行が足りんのです



S. H

## 選外の人間が選んだ選外のうた

(新聞の投稿欄から)

### 短歌、俳句欄

約十年間、始め朝日、その後の読売の歌壇俳壇で個人的に印象に残るものを目的もなく切り抜き保存してきました。

大分溜りましたので個人的に選び残紙処分することにしました。専門外の者が選ぶのは僭越、ムチモウマイの暴挙と思いますが、朝日も読売もそれぞれの四人の日本最高の権威者がそれぞれ週十編選ぶのです。約十年見てきましたが、面白いことに共通して選ばれる作品は希なのです。科学データと異なり、誰が、何時、何処に於いても同じ結果がでる訳にはいかないのです。

つまり選者が一人欠ければ四分一の作品は消え、一人増えればその割合で選ばれる作品が登場します。両紙とも選者が共通で選んだ場合☆印がつきます。二人は時折りありますが、三人になると激減し四人共通で☆印のお墨付きが添付されたのを見たことがありません。

私は、歌道に暗い部外者のためか入選作より佳作の方がイイと感じるほうが多いのです。感性の世界は人様々のようです。先端科学の量子論は既に多次元世界を認めているようです。在ると言う現象は相対的なものです。今はどこに居ても4、500のTVチャンネルの電波が飛び交っており、波長を同調させれば映像となり音となり現象化します。同調できないものは存在しないのです。感性の世界はとうに多次元です。その方が居ないとその世界はないのです。その方の見方、感じ方でもう一つの世界が現れ、広がります。

私が、イイと思うものをイイと感じられる方も少数おられる気がします。あくまでも選外の人間のシロウト選択なので、その道の権威者、と思える玄人的雅号を持つ方や選者の方の作品は遠慮しました。とはいえ雅号は無くてもその世界でそれ以上の方もおられると思います。

朝日、読売の歌壇、俳壇の他に私の身近な方で、短歌、俳句を作られる方がおります。

その他、最近知った幕末の歌人、橘曙覧の作品もねじ込みそれぞれほぼ二十編としました。

定期的に私信として出している詩画集があります。自分の作品だけではおこがましいので今回は、私が感銘した他人様の短歌、俳句を余興として取り入れました。少数の友人知人対象の私家版です。迷惑な方もいらつしやる筈です。何かお気に障る方がいましたらご容赦下さい。

短歌の部

年代順不同

どこかしらあてはまらない

選択肢ばかりならんでいるアンケート

堺市

一条 智美

かあさんが蛇じやの目をさしてお迎えの

やさしいあめははずこにいきしか

柏市

秋田千津子

待ちわびて乙女のごとく逝よきにけり

黄泉路よみじの父よ母をよろしく

栃木県

大橋 弘

妹の笑顔の寝顔がかわいくて

歯磨き中のパパまで呼んだ

富山市

松田梨子

中二



松田わこ家族

凄い虹でているよ しかも二重だよ  
勉強してる場合じゃないよ

富山市 松田わこ 小五

地震の中で赤ちゃん産んだお母さん  
暖かいシチュー届けてあげたい

富山市 松田わこ

それにしても十一歳はいそがしい  
急に一人になりたくなったり

富山市 松田わこ

叱られし鍛冶屋のおやぢの曾孫となる  
じゅうに十二歳の男の子をしっかりとつけてる

そうま匠瑳市 椎名 昭雄

パトカーが塀に隠れてじっと待つ

対向線に兎出ぬかと

市原市 井原 茂明

お父さん私ら永く生きたわね、そういう妻の頭撫でたる

城陽市 岩元 秀人

おかあさん役がいちばん好かつたよ

過ぎし時間の中のわたし

高岡市 野村 昭任

寝たきりの父の様子がおかしいと

知らせに來り我が家猫は

いわき市 佐川 義成

名を呼べば僅かに尻尾振りにけり

我が飼い犬の死に際にして

高松市 岩沢 道夫



矢車草とカラスノエンドウ

遠回り歩いて君を送る夜の尽きない会話  
道が足りない

水戸市 田口 敏

よくしゃべる人降りゆきて身の上を知ってしまったバスの乗客

町田市 岩元 房子

妖精が銀のラッパを吹きながら

降りてくるごとし 春のボタ雪

東京都 町田 サチ

あの声はまさしく夫つまのものなりき

二十年経れど闇に聴こゆる

蓮田市 岩崎千恵子

抱かかえられ湯船に浮かぶ幸福しあわせを

ただ有り難く 言葉失う

さいたま市 松村 恂

## 橘曙覧 幕末の歌人

独楽吟「たのしみは ……とき」シリーズ五十二編だけでは解らないこと

楽しみは まれに魚煮て児等皆が うまいうましといひてくふ時

一家団樂のこの歌を詠んだあと

橘曙覧は三女健子四歳を天然痘で亡くしています。第一女吉子は生まれて直ぐ死亡、この頃の幼児死亡率は高い。

きのふまで 吾が衣手にとりすがり 父よ父よといひてしものを

時代は違いますが前世で逢った気がする山 上億良と橘曙覧は生れ変りかと想うほど全てが酷似しています。

億良の歌です

瓜食(はめば) 子ども思ほゆ 栗食めば まして惚はゆ

いづくより 来りしものぞ 眼交(まなかひ)に もとなかりて

安眠(やすい)し寝(な)さぬ

億良は最愛の男子 古日を亡くしています。そのときの億良の歌です。

若ければ道行き知らじ賄はせむ下方の使負ひて通らせ

幼くして亡くなったので黄泉の国への行き方が分からないでしょう。黄泉の道案内さま

贈り物をいたしますので、どうか迷わないように背負つて連れて行ってやってください。

現在に似た官僚政治の時代であった。賄(ワイロ) 下方(ワイロで動く下級公務員)

あの世も官僚政治の延長と庶民の誰もが考えていた。億良自身下級公務員であつたが

天性の人柄が良かった。そういう公務員が現在も混在している。昔と同じです。



3. 11地震で怪我をした埴輪

俳句の部

この世から 電話のかかる 昼寝かな

神戸市 高橋 寛

何か落ち あとは音なき 冬の闇

神戸市 矢田 武久

赤とんぼ 優しき人を 選びけり

鎌ヶ谷市 梅溪由美子

噴水の ふつと止みたる 現うつつかな

横浜市 山本 幸子

秋風や まだ飯の世に 住んでいる

相模原市 田中 仁

静寂が 雪降る音と 解るまで

昭島市 岩佐晴子

しんしんと 降るを炬燵こたつに 聴きいており

芦屋市 田中節夫

とんでいけ しゃぼんだまには 空がある

川西市 上村敏夫

永遠の 沖のヨットの やうな人

川西市 上村敏夫

見たくない ものは見えない 春霞

千葉市 椿 良松

まだ朝に 気づいてをらぬ 月見草

熊本県菊陽町 井芹眞一朗



朝露に 光らぬ草は なかりけり

熊本県菊陽町 井芹眞一朗

かなかなの 鳴くころ山の 宿に着く

福岡市 松尾 康乃

無人駅 桜月夜の 中にある

多久市 松枝さよ子

初日の出 天動説として 眺む

高島市 沼井 清

亡き妻に 青春ありや 夏帽子

岡山市 大本武千代

チューリップ 一つ咲いた日 入院す

板倉市 岡部いずみ

種を時く 人も雲雀も みな夕日

さぬき市 野崎憲子

母あらば 畑より戻る 頃の月

八王子 瀧上 祐幸

えごの花 わが青春の 樺かんばの死 ※ 樺美智子 要説明 安保闘争 その昔

平塚市 日下光代



## 追補 ついでほ

### 時間旅行

6 頁 ※ 両者の抗争は約120年間続いたが、この地区で何時、誰と誰が戦ったかは定かではない。

郷土史家 中里忠博氏談

### おとぎの国

8 頁 ※ 1 **「まじめな」** とんでもない世界」(株)海鳴社 奥 健夫 (東北大学 工学博士)を読んで下さい。

難しい事を易しく書ける学者です。私は受け売りです。

※ 2 半分にはその半分がある、とゼノンも私も信じていた。

9 頁 ※ 3 華嚴経の要約

※ 4 **「まじめな」** とんでもない世界」参照

### モシ モシ

11 頁 ※ 地球外知的生命体探査計画。1960年のオズマ計画を引き継ぎ1970年から光学望遠鏡を動員、

更に2010年には世界合同SETI、ドロシー計画と発展し現在に至る。このポストには未だ応答ないが

【コンタクト】というSF映画ではベガ星から応答があり、超光速の星間宇宙船の図面を送られる。

### 生れ変わり

15 頁 ※ 閑さや 岩にしみいる 蝉の声 1926年時の歌壇の大御所斎藤茂吉はアブラ蝉としたが

十年後、小宮豊隆は芭蕉が山寺を訪れたのは七月上旬であることは分かっている。この季節鳴いているのは

アブラ蝉ではない、ニイニイ蝉であると立証した。茂吉の負け。

### 時間船

17頁※ インドのシヴァ神

アガステイアの葉

18頁※1 青山圭秀 東京大学教養学部卒 「理性の揺らぎ：科学と知識のさらなる内側」幻冬舎

「真実のサイババ」三五館 理学博士 医学博士

※2 聖書 山上の垂訓

夢日記

20頁※ 鉄火場↓賭博場↓とば↓とばあらし

コーラスとソロ

24頁※ 草野心平 蛙のうた(つんぼ)「のるりる」より

ガビラ 火事のような激しい歌と稲妻が好きな蛙の男の子。

七月のまぶしい雨上りヤマカガシに喰われ壮絶な最期を遂げる

居待ち月との会話

30頁※ 一五夜を過ぎると一六夜(いざよい)一七夜(立待ち月)一八夜(居待ち月)…と名が変わります。

約一時間づつ遅い月の出となります。一七夜月や一八夜月が南中するのは草木も寝る丑三時です。

バカ 三態

33頁※1 養老孟司「バカの壁」

33頁※2 トルストイ「イワンのバカ」

自然は若者ばかり

38頁※「家族になったスズメのチュン」竹田津 実



「ある小さなスズメの記録」クレア・キップス

待ち時間

41頁 ※ 西遊記。返事をするや吸い込まれてしまう魔法の瓢箪【紅葫蘆】。孫悟空は一度吸い込まれてしまう。

天上界にあつた五つの宝具の一つ。番をしていた童子二人、盗み出して下界に逃亡。金角・銀角という妖怪になる。

花のコーラス

42頁 ※1 雛人形のルーツ。平安時代の身代わり信仰。

43頁 ※2 細菌、糸状菌、放射菌、藻類、原生動物、線虫等。

ヨブ記

44頁 ※旧約聖書の神の名は幾通りかあるようです。エホバ ヤハウェ ヤーウエヤハヴェ等。

ご性格がイエス様の実の父君とは思えないヤ、エ神様です。真面目なクリスチャンの方御寛容下さい。

乞食(自戒の言葉)

49頁 ※マタイ伝六章二十九節 栄華を極めたワロモンでさえこの花の一つに及ばない。

葉陰の赤い実

51頁 ※妖精の贈り物はこの世界に持ち込むと消えてしまう。狐の小判は木の葉の妖あやかしだが妖精の贈り物は異次元のものである。

アイルランド民謡 Believe me (和名 春の日の花と輝く)は原詩のほつが素敵です。Like fairy gifts fading away.

竈の神・草の神・風の神…

54頁 ※ 江戸時代の『神道大意』 現代語訳 かむながらのみち 教主 北川慈敬

… 水には水の神様がいらつしやいますから「ああ あそこには水の神様、ミツハノメ様がいらつしやいますから、大切にに使わせていただく」と思い  
火を使うにしても「ああ、あそこには火の神・カグツチ様がいらつしやる。と思う。…」

知りたいこと

57頁 ※あなたは私がこの世界で出逢った人達

エリート達

59頁 ※1 永遠の素朴派

※2 「自分を選んで生まれてきたよ」 印鑰<sup>いんやく</sup> 理生<sup>りお</sup> サンマーク出版

初版二〇一二年五月三十日同年十月一日十二刷！ロコミ読者 推定二、三十万人以上

真夏の夜の夢

63頁 ※(曲は三・ロツソの「夜空のトランペット」)

夏草の歴史

65頁 ※ 曰く<sup>いは</sup> 人はみな草なり イザヤ書40章-6

ウツつき

67頁 ※蓮田の伝説 中里忠博著 各地に似たような伝説がある

そのような事が各地にあつたからだと推測されます



熟するとサヤが黒くなる  
カラスノエンドウ

※ 「第二ステージ夏」アマチュアなりに詩のようなモノを書きそれなりの投稿、同人誌参加等をしていたのは二十年か三十年前迄です。その後は日記代りに書いたものを私信として十数部作り、おそろおそろ贈ってきましたが、何時の間にか一〇〇部を超えてしまいました。作りすぎました。怪訝に感じる方、ご迷惑な方もいることを恥ずかしながら気づきました。これを期に初心に帰ります。昔作ったホームページがあります。<http://www.ohdk.co.jp/ohata/index.htm>です。その箱庭に出す程度が無難と思います。長い間有り難うございました。

私家版 詩画集【第二ステージ夏】

平成二十七年 立秋

出版所 手作り出版

蓮田市黒浜3111の2 山やまのうえの上むらひと 村人

戸籍名 大畑 善夫